



なかしま しんいち
中島 慎一

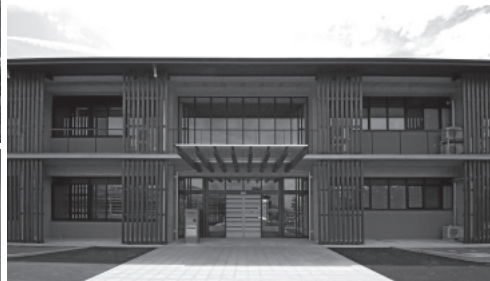
生年月 1983年2月兵庫県生まれ
最終学歴 2009年京都工芸繊維大学
大学院工芸科学研究科
建築設計学専攻修了
業務経歴 2009年㈱徳岡昌克建築設計事務所入社
現在、㈱徳岡設計 SE室
●担当した主なプロジェクト
2009年 中国武進区湖塘橋実験小学
2010年 夕陽の広場展望レストハウス
2012年 福井大学福井メディカルシ
ミュレーションセンター
2012年 沖縄の新たな発展につなげ
る大規模基地返還跡地利用
計画提案コンペ入選
2013年 京都工芸繊維大学旧3号館
改修
2013年 奈良県農業研究開発セン
ター及びなら食と農の魅力
創造国際大学校
2017年 ナカザワ建販本社社屋

■青年技術者のことば

ー風土とデザインを実行するー
受注形態が多様化しており、設計者の関わり方は一つだけではなくな
ってきているが、私は、常に地域性
の中にある普遍性を追い求め、その
地域・場所で誇りとなる建築とは何
かと考えながら、業務に取り組んで
いる。
まず、関わったプロジェクトにお
いて気候・地味・地勢などの土地環
境や特色・気風などの地域環境だけ
でなく、人間の文化の形成などに影
響を及ぼす精神的な環境である「風
土」となる価値を再定義することに
力を注ぐ。なぜなら私たちは建築を
つくるが、その環境は人をつくると
考えるからだ。
そして、プロジェクトのどの工程
においても建築主や関係者との対話
を通して見出された建築的な問題の
解決だけでなく、風土となる環境
的な付加価値を設計図書や様々な書
類の中に「デザイン」し、意志を込
める。
それらの意志・思いの連りが関係
者を超えて人々に愛される建築につ
ながると信じ、これからも取り組
んでいきたい。

■すいせん者

藤城義文
㈱徳岡設計 取締役副社長



奈良県農業研究開発センター及びなら食と農の魅力創造国際大学校

大和三山に隣接した風致地区で、古墳を抱く敷地内に、研究所と大学校の機能集約と研究開発の機能強化を行うことで、県農業を支援する多棟型拠点施設として再整備。過去の古墳に対峙し、現在の研究成果を刻み築き上げ、これからの未来を交流して生み出していく空間づくりを目指した。



京都工芸繊維大学旧3号館改修

本野精吾教授により設計され昭和5年に竣工した、登録有形文化財の指定を受けている大学のシンボリックな建物の改修。当初意図された価値を読み取って活かし、使い続けていくことができる建物とするよう心がけた。度重なる改修により損なわれていたバウハウス校舎を彷彿させる水平連続窓を、現代の機能・性能を満たした形として現出させた。